

未来の都市に 縁側はあるか

渡辺仁史



●室内の縁側から始まった問い

東京の家の地下をリニューアルするときに掲げたテーマの一つが「室内の縁側」だった。その後、石垣島のリビングをリフォームする時も、また縁側をキーワードにした。この縁側的な発想って、家の中だけでなく、都市にも応用できるんじゃないか？と思ったのです。

●縁側って何だろう？

縁側の本質は「境界を曖昧にする」ことだと思う。内でも外でもない、プライベートでもパブリックでもない、絶妙な中間地帯。そこで人は自然に交流し、ゆるやかに繋がっていた。この行動誘発装置として空間が、今の都市にはないのでは

●都市に縁側を

石垣島では、今でも住宅と道路の境界が曖昧で、人々が庭先で自然に立ち話をしている光景に出会う。路地で子どもたちが遊び、大人たちが見守る。そこには都市が失った豊かな近隣関係が残っている。

でも、これは単なる田舎だけではなく、都市にも活かせるはずだ。

例えば、住宅地と商業地区の境界に、高層住宅の各階に、人々が自然に出会える

「縁側エリア」を作ることは？カフェとも公園とも違う、新しい都市空間。

●テクノロジーと縁側

デジタル技術やテクノロジーを縁側空間の創出に活用することも可能だ。可変的な開口部で季節や時間帯に応じて内外の境界を調整したり、AR技術で物理的な壁の向こう側を可視化したり。

●境界を超える都市へ

我が家の「室内の縁側」は、物理的な制約を超えて縁側的な空間を創出する可能性を示してくれた。石垣島での体験は、そこでの行動の多様性を創出する空間の力を実感させてくれた。

未来の都市に縁側があるかどうか、それは「人と人との繋がり」を促進するような行動を生み出せるかどうかにかかっている。小さな実験から始めて、成功例を積み重ねていく。そうした草の根的な取り組みが、やがて都市全体を変えていくだろう。

縁側は建築的な要素を超えて、人と人、人と環境を繋ぐ哲学だ。我が家で実現した内なる小さな縁側は、やがて大きな都市の変化に繋がることを願っている。



画像生成AIが考えた「未来の都市の縁側」似たようなものは、すでに実現されているような気もする、、、

News Paper
第33号
2025.08.01